

【プレゼンテーション資料】

2007年9月中間期 連結業績のご説明

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2007年11月16日

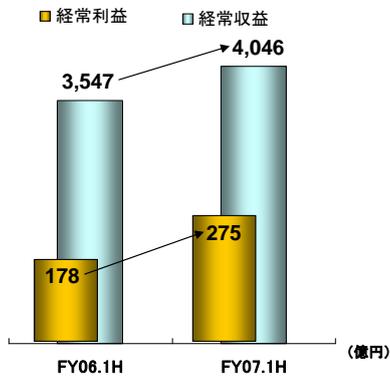
表紙

免責事項:

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見直しを見直すとは限りません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

免責事項

連結業績ハイライト



	(億円)	FY06.1H	FY07.1H	前年同期比	
				増減額	増減率
生命保険事業	経常収益	3,199	3,657	+458	+14%
	経常利益	163	240	+77	+47%
損害保険事業	経常収益	256	277	+21	+8%
	経常利益	9	20	+10	+116%
銀行事業	経常収益	96	115	+19	+20%
	経常利益	5	14	+8	+151%
SFH	経常収益	68	69	+0	+1%
	経常利益	65	65	+0	+0%
SFHG連結	経常収益	3,547	4,046	+499	+14%
	経常利益	178	275	+96	+54%

金額は単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニーフィナンシャルホールディングスグループの連結経常収益は、生命保険、損害保険、銀行の全ての事業で増収となり、前年同期比**14%**増加の**4,046**億円となりました。

連結経常利益も、すべての事業で増加し、前年同期比**96**億円増加の**275**億円となりました。

連結中間純利益は、前年同期比**57**億円増加の**167**億円となりました。

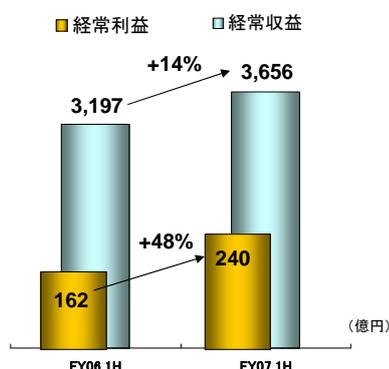
連結業績ハイライト

- 生命保険事業では、保有契約高・新契約高（個人保険＋個人年金保険）ともに堅調に推移。一般勘定の資産運用収益が増加したこともあり、経常収益、経常利益ともに増加。
- 損害保険事業では、自動車保険を中心に契約件数が順調に増加し、正味収入保険料も増加。事業費の適切なコントロールにより正味事業費率が改善。経常収益、経常利益ともに増加。
- 銀行事業では、業容が順調に拡大し預り資産残高が1兆円を突破。業容拡大に伴い資金運用収益などが増加し、経常収益、経常利益ともに増加。
- 連結ベースの経常収益は、前年同期比14%増の4,046億円。経常利益は、前年同期比96億円増加(+54%)の275億円。中間純利益は、前年同期比57億円増加(+52%)の167億円。

各事業セグメント毎の業績の要旨をまとめております。

これより、各事業を担う3社の業績について詳細をご説明してまいります。

ソニー生命 業績ハイライト(単体)



【ソニー生命】

- ◆前年同期比 増収増益
- ◆新契約高は前年同期比11%増加
- ◆保有契約高の堅調推移により保険料等収入が増加
- ◆一般勘定の資産運用収益が増加
- ◆基礎利益は139億円
- ◆解約・失効率は前年同期比0.2pt増の3.01%

(億円)	FY06.1H	FY07.1H	前年同期比	
			増減額	増減率
経常収益	3,197	3,656	+459	+14%
保険料等収入	2,902	3,185	+282	+10%
資産運用収益	287	447	+160	+56%
経常費用	3,035	3,415	+380	+13%
保険金等支払金	1,017	1,174	+157	+15%
責任準備金等繰入額	1,533	1,646	+113	+7%
資産運用費用	20	90	+70	+349%
事業費	418	456	+37	+9%
経常利益	162	240	+78	+48%
中間純利益	99	130	+30	+31%
基礎利益	133	139	+6	+5%
有価証券残高	21,436	24,109	+2,672	+12%
責任準備金残高	28,922	32,535	+3,613	+12%
純資産額	2,018	2,289	+270	+13%
総資産額	32,043	36,071	+4,027	+13%

注)上記数値は単体ベース。

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

4

まず、(ソニーフィリピンを除く)ソニー生命単体の業績ハイライトについてご説明します。

ソニー生命の経常収益は、保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したこと、ならびに一般勘定の資産運用収益が増加したことにより、前年同期比**14%増加の3,656億円**となりました。

経常利益は、主に一般勘定の資産運用損益の改善により、前年同期比**78億円増加の240億円**となりました。

経常利益が増加した結果、中間純利益は前年同期比**30億円増加の130億円**となりました。

なお、特別損益は主に価格変動準備金の繰り入れにより、**16億円**の特別損失を計上しました。

ソニー生命 主要業績指標(単体)



(単位:億円)

	2006年度中間期	2007年度中間期	増減率
保有契約高 ^{*1}	296,743	308,787	+ 4.1%
保有契約年換算保険料 ^{*1}	4,888	5,174	+ 5.9%
うち第三分野	1,139	1,205	+ 5.8%
解約・失効率 ^{*1,2}	2.81%	3.01%	+ 0.20pt
新契約高 ^{*1}	16,936	18,793	+ 11.0%
新契約年換算保険料 ^{*1}	315	312	▲1.0%
うち第三分野	68	65	▲4.2%
保険料等収入	2,902	3,185	+ 9.7%
資産運用損益	267	357	+ 33.7%
基礎利益	133	139	+ 4.5%
ソルベンシー・マージン比率	1,582.8%	1,870.0%	+ 287.2pt

^{*1}保有契約高、保有契約年換算保険料、解約・失効率、新契約高、新契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計です。金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

^{*2}解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出しています。

5

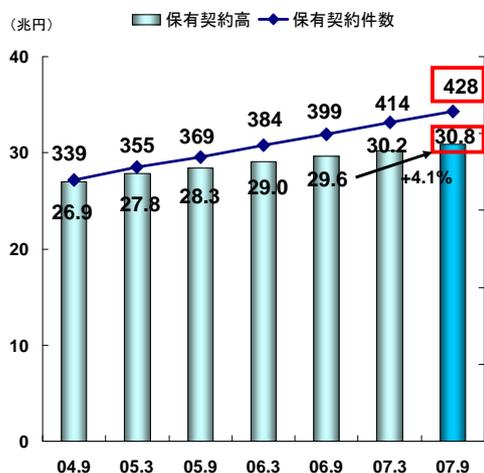
ソニー生命の主要業績指標につきましては、以下のスライドに記載の通りでございます。

これ以降のスライドで過去のトレンドと合わせた資料でご説明いたします。

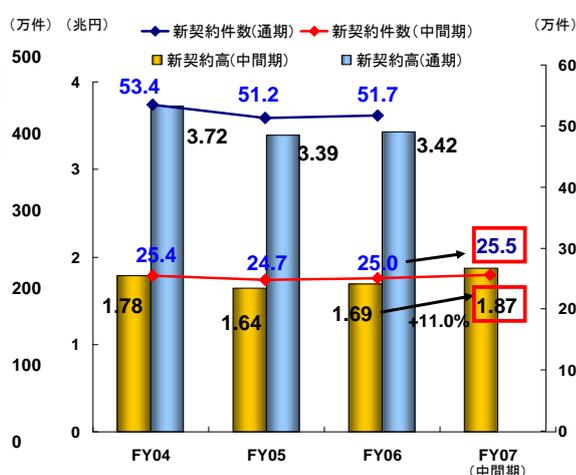
ソニー生命の業績(1)



保有契約高(個人保険+個人年金保険)



新契約高(個人保険+個人年金保険)



金額は百億円未満切捨て、件数は万件又は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

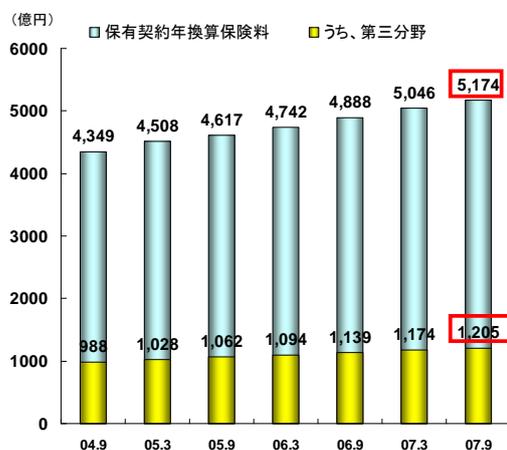
6

ソニー生命の保有契約高は堅調に推移し、2007年9月末時点で前年同期末比4.1%増加の30兆8千億円となりました。保有契約件数は7.4%増加の428万件となりました。

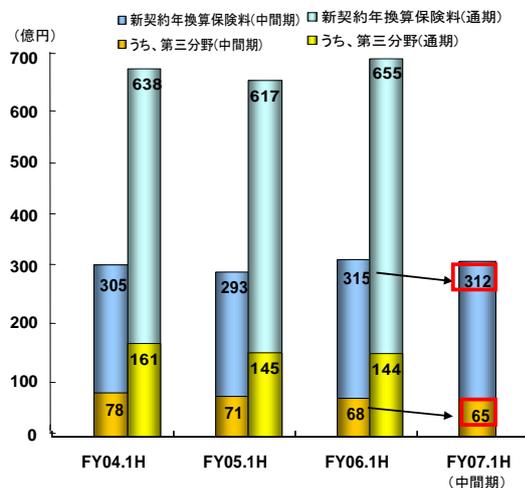
当中間期の新契約高は、前年同期比11.0%増加の1兆8千7百億円となりました。商品別では、家族収入保険や変額保険などの販売が好調でした。新契約件数も1.9%増加し、25万件となりました。

ソニー生命の業績(2)

保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



新契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



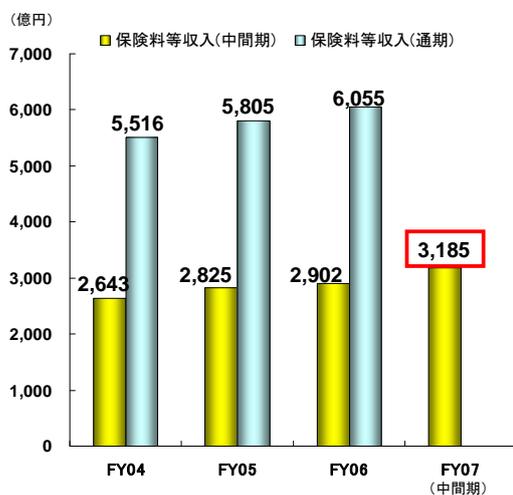
金額は億円未満切捨て

保有契約年換算保険料は、前年同期末比**5.9%**増加の**5,174**億円となりました。
うち、第三分野は**5.8%**増加の**1,205**億円となりました。

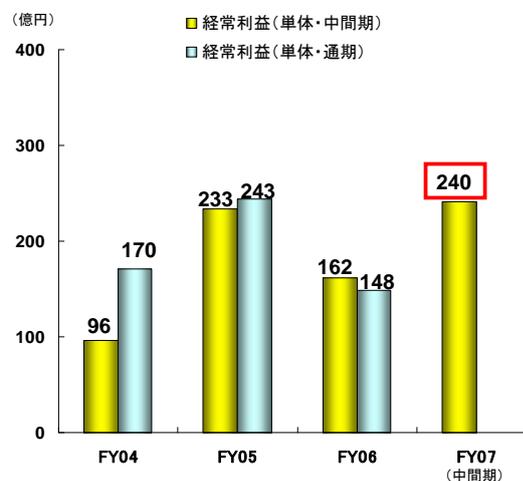
新契約年換算保険料は、前年同期比**1.0%**減少の**312**億円となりました。
うち、第三分野については、**4.2%**減少の**65**億円となりました。

ソニー生命の業績(3)

保険料等収入



経常利益(単体)



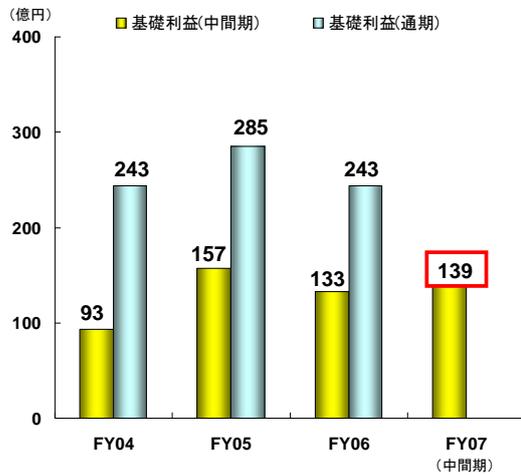
金額は億円未満切捨て

保険料等収入は、保有契約高の堅調な推移により、前年同期比9.7%増加の3,185億円となりました。

また、ソニー生命単体の経常利益は、主に一般勘定の資産運用損益の改善により、前年同期比78億円増加の240億円となりました。

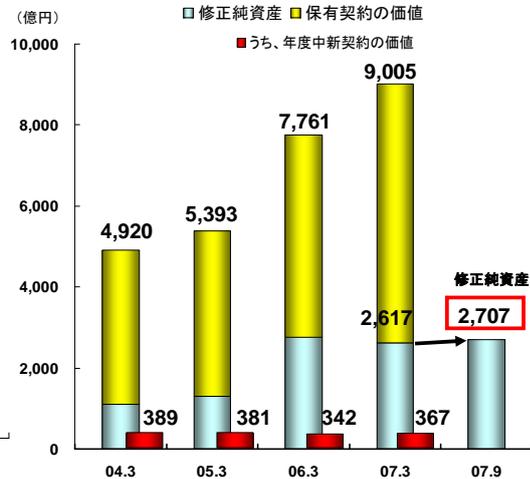
ソニー生命の業績(4)

基礎利益



金額は億円未満切捨て

エンベディッドバリュー(EV)



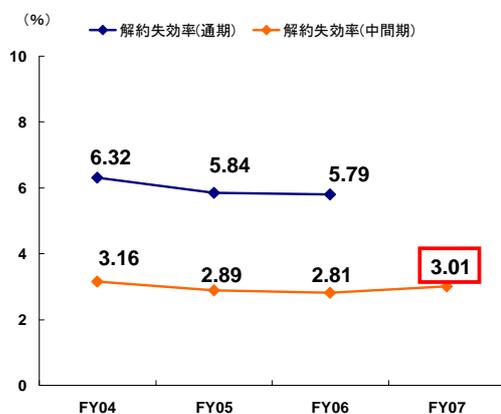
FY03, FY04, FY05, FY06末のEVIは、前提条件及び計算方法がそれぞれ異なります。EVの前提条件など詳細については、各プレスリリースをご覧ください。

基礎利益は、前年同期比6億円増加の139億円となりました。

エンベディッド・バリューにつきましては、当社は年度末時点の数値を開示しておりますが、当中間期末ではその内訳を構成する修正純資産が、前年度末比90億円増加の2,707億円となりましたことをお伝えします。

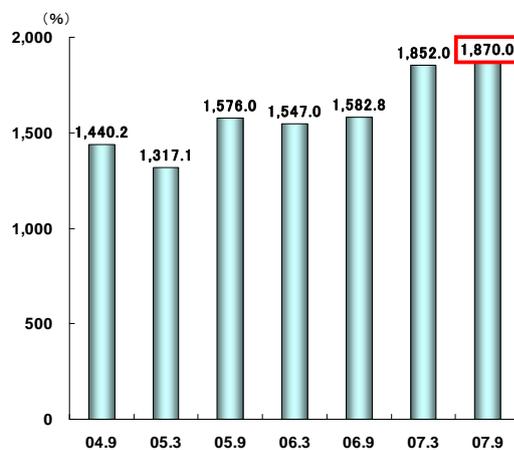
ソニー生命の業績(5)

解約・失効率*(個人保険+個人年金保険)



*解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出した数値です。

ソルベンシー・マージン比率

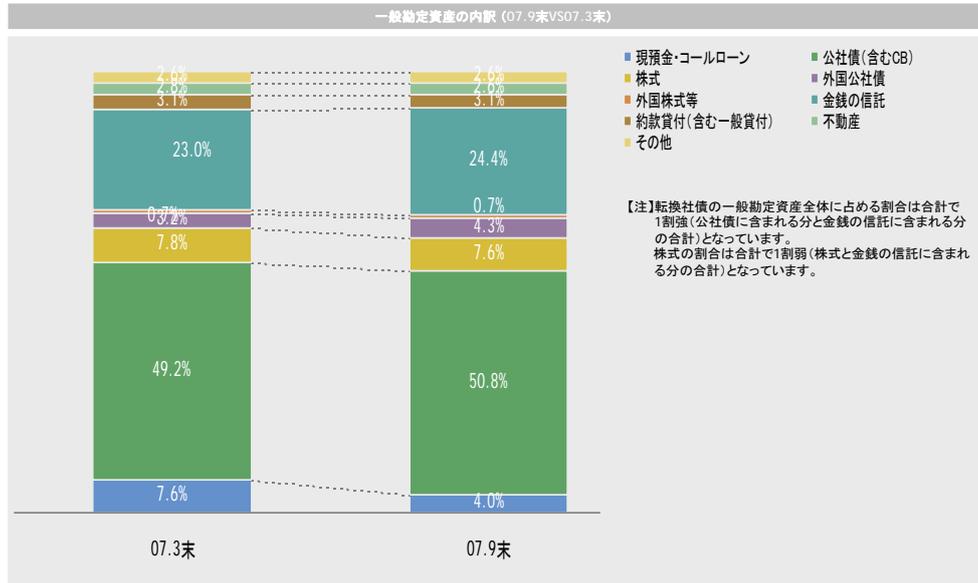


解約・失効率は、前年同期比0.20ポイント増の3.01%となりましたが、依然として業界水準と比べて、大変低い水準を維持しております。

ソルベンシー・マージン比率は、1,870.0%と、引き続き高い水準を維持しています。

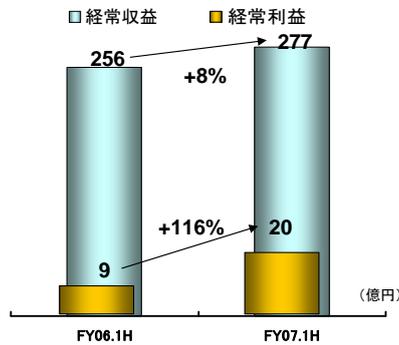
ソニー生命の業績(6)

一般勘定資産の内訳(07.9末VS07.3末)



前年度末と対比した当中間期末の一般勘定の資産構成比はご覧のとおりです。株式、および公社債に含まれる転換社債につきましては、金銭の信託に含まれる株式および転換社債と合わせた実質ベースで見ますと、株式が一般勘定資産総額の1割弱、転換社債が1割強となっております。

ソニー損保 業績ハイライト



【ソニー損保】

- ◆前年同期比 増収増益
- ◆主力の自動車保険の契約件数の増加により保険引受収益は274億円
- ◆損害率の安定的な推移と事業費率の改善により経常利益は20億円
- ◆コンバインド・レシオは、0.7ポイント改善の76.4%

(億円)	FY06.1H	FY07.1H	前年同期比	
			増減	増減率
経常収益	256	277	+21	+8%
保険引受収益	254	274	+20	+8%
資産運用収益	2	2	+0	+20%
経常費用	247	257	+10	+4%
保険引受費用	186	192	+6	+3%
資産運用費用	3	3	+0	+4%
営業費及び一般管理費	61	65	+3	+6%
経常利益	9	20	+10	+116%
中間純利益	7	19	+12	+162%
有価証券残高	491	569	+77	+16%
責任準備金残高	337	396	+59	+18%
純資産額	124	152	+28	+23%
総資産額	612	734	+121	+20%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

次に、ソニー損保の業績ハイライトについてご説明します。

経常収益は、主力の自動車保険の好調により正味収入保険料が増加し、前年同期比8%増加の277億円となりました。

経常利益は、経常収益の増加に加え、損害率が前年度並みに推移し、事業費率も改善したことから、前年同期比10億円増加の20億円となりました。

中間純利益は前年同期比12億円増加の19億円となりました。

ソニー損保 主要業績指標

(単位:億円)

	2006年度中間期	2007年度中間期	増減率
元受正味保険料	251	273	+ 9%
正味収入保険料	253	274	+ 8%
正味支払保険金	115	124	+ 8%
正味損害率	51.2%	51.1%	0.1pt改善
正味事業費率	25.9%	25.3%	0.6pt改善
コンバインド・レシオ	77.1%	76.4%	0.7pt改善
ソルベンシー・マージン比率	971.9%	1,067.7%	+ 95.8pt
保有契約件数	89万件	98万件	+ 10%

※正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料

※正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

※保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。

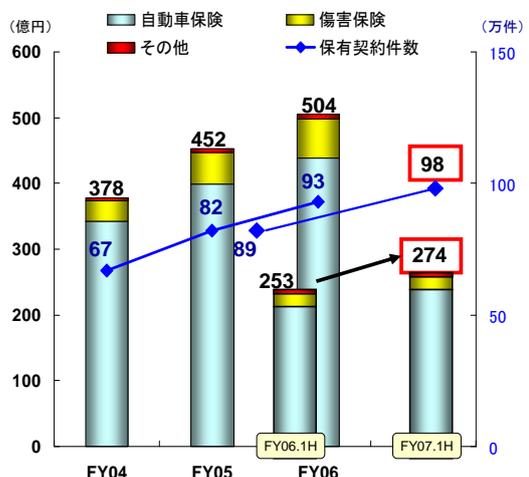
金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保の主要業績指標につきましては、以下のスライドに記載の通りでございます。

これ以降のページで過去のトレンドと合わせてご説明いたします。

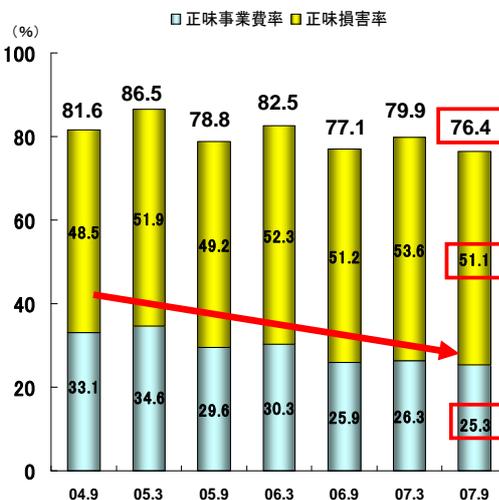
ソニー損保の業績(1)

正味収入保険料と保有契約件数



保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。傷害保険のほとんどが、ガン重点医療保険である。
金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

コンバインド・レシオの推移



正味事業費率 = 保険引受に係る事業費 ÷ 正味収入保険料
正味損害率 = (正味支払保険金 + 損害調査費) ÷ 正味収入保険料

保険引受の状況につきましては、ご覧いただけますように、保有契約件数が順調に増加し、当中間期末で、自動車保険とガン重点医療保険の合計で、前年同期末比10%増の98万件となりました。正味収入保険料も前年同期比8%増の274億円となりました。

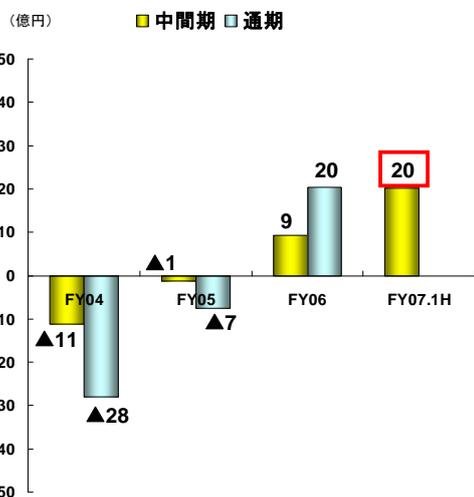
正味損害率は前年同期比0.1ポイント改善の51.1%となりました。

正味事業費率は、業務の効率化を進めたことにより前年同期比0.6ポイント改善の25.3%となりました。

この結果、正味事業費率と正味損害率を合わせたコンバインド・レシオは前年同期比0.7ポイント改善の76.4%となりました。

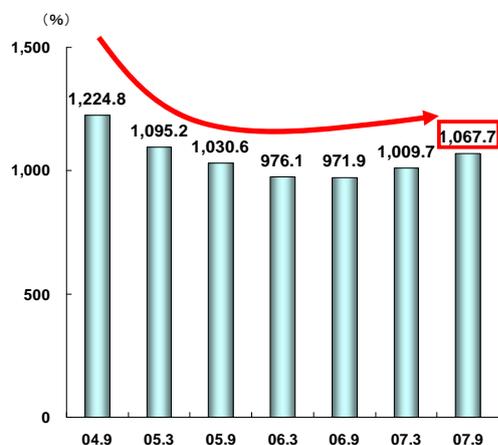
ソニー損保の業績(2)

経常利益(損失)



金額は億円未満切捨て

ソルベンシー・マージン比率

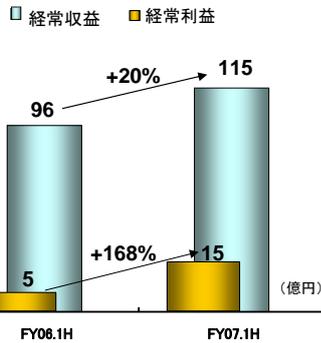


前述の通り、順調な契約件数の伸びと、事業費の適切なコントロールの結果、昨年度に黒字転換しましたソニー損保の収益性の改善傾向は続いております。

また、当中間期は、ガン重点医療保険の責任準備金算出方法変更により経常費用の責任準備金繰入額が減少したこともあり、経常利益は、昨年度通期と同水準の20億円となりました。

なお、当中間期末のソルベンシー・マージン比率は1,067.7%と、健全な水準を維持しております。

ソニー銀行 業績ハイライト(単体)



【ソニー銀行】

- ◆前年同期比 増収増益
- ◆住宅ローン残高の伸びによる貸出金利息の増加などにより、資金運用収支の増加
- ◆中間純利益は、税効果会計による法人税等調整額の計上により20億円
- ◆業務粗利益は資金運用収支24億円、役員取引等収支3億円、その他業務収支26億円の合計54億円
営業経費は横ばいの38億円
- ◆預り資産残高は本年3月末比1,571億円増加
(半期ベース過去最高)の1兆60億円

(億円)	FY06.1H	FY07.1H	前年同期比	
			増減	増減率
経常収益	96	115	+19	+20%
業務粗利益	45	54	+9	+22%
資金運用収支	20	24	+4	+24%
役員取引等収支	1	3	+1	+144%
その他業務収支	23	26	+3	+13%
営業経費	38	38	0	0%
経常利益	5	15	+9	+168%
中間純利益	1	20	+18	+1,110%
有価証券残高	3,910	3,483	-426	-11%
貸出金残高	2,491	3,191	+699	+28%
預金残高	6,827	8,884	+2,057	+30%
預り資産残高	7,627	10,060	+2,433	+32%
純資産額	361	382	+21	+6%
総資産額	7,510	9,661	+2,150	+29%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

16

ソニー銀行の経常収益は、住宅ローン残高の伸びによる貸出金利息の増加等により資金運用収益が増加し、前年同期比20%増加の115億円となりました。

経常利益は業務粗利益の増加により、前年同期比9億円増加の15億円となりました。

また中間純利益は、税効果会計による法人税等調整額の計上もあり大幅に増加し、20億円となりました。

ソニー銀行 主要業績指標(単体)



(単位:億円)

	2006年度中間期	2007年度中間期	増減率
業務粗利益	45	54	+ 22%
営業経費	38	38	0%
業務純益	6	15	+ 157%
経常利益	5	15	+ 168%
預り資産残高	7,627	10,060	+ 32%
うち当中間期増加額	876	1,571	+ 79%
貸出金残高	2,491	3,191	+ 28%
うち当中間期増加額	96	344	+ 256%
自己資本比率(国内基準)	10.52%	10.94%	+ 0.42pt
口座数	45.8万件	53.2万件	+ 16%
うち当中間期増加数	2.8万件	4.1万件	+ 1.2万件

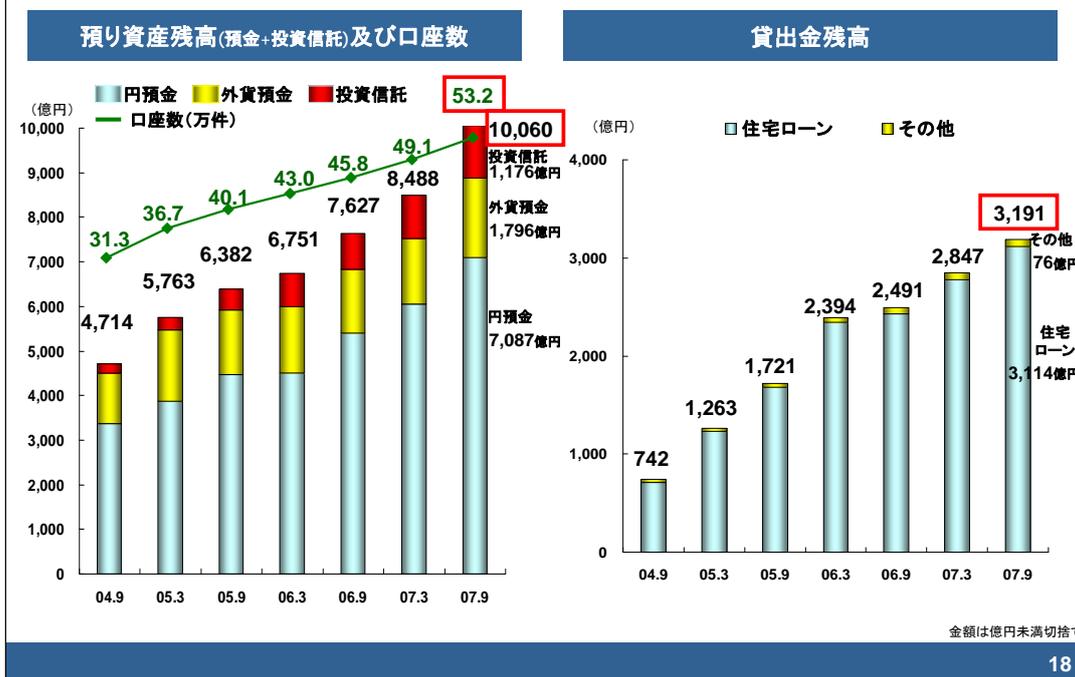
金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

17

ソニー銀行の主要業績指標につきましては、以下のスライドの通りでございます。

これ以降のスライドで過去のトレンドと合わせてご説明します。

ソニー銀行の業績(1)



まず、業容の動向についてですが、当中間期末の預金と投資信託を合わせた預り資産残高は、特に円定期預金の増加が貢献し、前年度末比1,571億円、18.5%増加の1兆60億円と、1兆円を超えました。

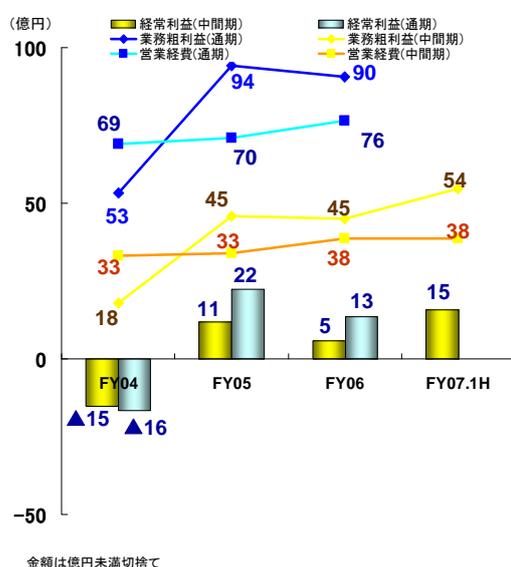
円預金と外貨預金をあわせた預金残高は1,360億円、18.1%増加し、8,884億円となりました。

投資信託は当中間期末で210億円、21.8%増加の1,176億円、貸出金残高も344億円、12.1%増加の3,191億円と、順調に増加しております。

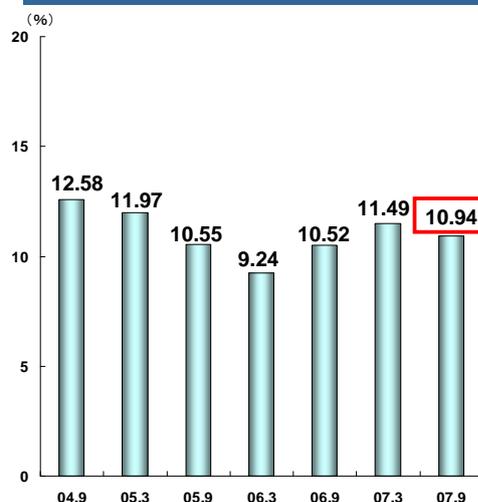
なお、当中間期末の口座数は前年度末比4.1万件増の53.2万件となりました。

ソニー銀行の業績(2)

業務粗利益・営業経費・経常利益



自己資本比率(国内基準)



*2006年度末および当中間期末は、「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当かどうかを判断するための基準を定める件」(平成18年金融庁告示第19号)所定の基準に基づき、算出しています。2006年度中間期末までは旧告示所定の基準により算出しております。

次に、収益性ですが、業務粗利益は、資金運用収支の増加等により、前年同期比9億円増加の54億円となりました。

業務粗利益の内訳は、資金運用収支が業容の拡大に伴う運用資産残高の増加により前年同期比4億円増加の24億円、役務取引等収支が投資信託残高の増加に伴う証券関連手数料収入の増加により1億円増加の3億円、その他業務収支が主に市場運用損益の改善により3億円増加の26億円となりました。

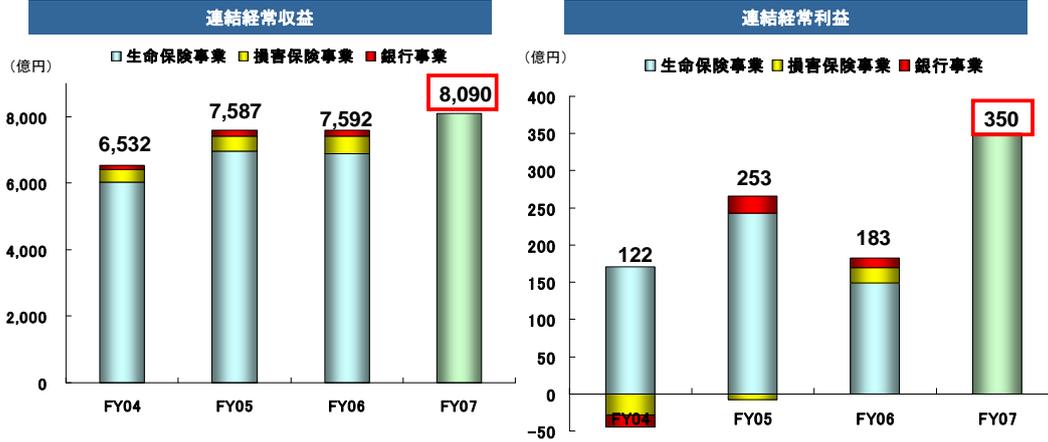
また、自己資本比率は10.94%と健全な水準を維持しております。

連結通期業績予想(FY07)



(単位:億円 / 金額は単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示)

	FY04	FY05	FY06	FY07(予想)	増減率
連結経常収益	6,532	7,587	7,592	8,090	+ 6.5%
連結経常利益	122	253	183	350	+ 90.7%
連結当期純利益	63	115	100	210	+ 109.6%



20

2008年3月期の連結業績予想につきましては、主に中間期の経常利益、中間純利益が当初の見込みを上回ったため、経常収益を50億円上方修正し8,090億円、経常利益を90億円上方修正し350億円、当期純利益を60億円上方修正し210億円としました。

中間期では、生命保険、損害保険および銀行の各事業の業容拡大に加えて、生命保険事業の一般勘定の資産運用収益が増加したことなどにより、10月11日に公表した見込に対して、経常収益はほぼ想定どおりだったものの、経常利益は115億円、中間純利益は77億円、それぞれ見込みを上回りました。

新規事業の進捗状況

- ◆ **ソニーライフ・エイゴン・プランニング株式会社(AEGON Sony Life Planning Co., Ltd)**
- ◆ 設立目的: 独自性のある商品を金融機関窓口、ライフプランナー経由で販売するための、AEGONとのJV個人年金保険子会社を設立すること。
- ◆ 所在地: 東京都港区赤坂二丁目9番11号
- ◆ 設立日: 2007年8月29日
- ◆ 資本金: 10億円
- ◆ 株主: ソニー生命保険株式会社50%、AEGON INTERNATIONAL N.V.50%
- ◆ 代表取締役社長: 荒川 繁
- ◆ 業務内容:
 - (1) 生命保険業についての市場開発並びに販売のための調査及び企画、市場調査及び広告宣伝に関する業務
 - (2) 2008年度の営業開始を目標に、個人年金保険商品を開発・販売する新しい生命保険会社設立に向けた準備を推進中。

- ◆ **ソニーバンク証券株式会社(Sony Bank Securities Inc.)**
- ◆ 設立目的: ソニー銀行のお客様に、中長期的な資産運用という視点から株式をはじめとした有価証券運用サービスを提供。
- ◆ 所在地: 東京都港区赤坂二丁目17番22号
- ◆ 設立日: 2007年6月19日、10月1日営業開始
- ◆ 資本金: 15億円
- ◆ 株主: ソニー銀行株式会社 100%
- ◆ 代表取締役社長: 杉浦 康浩
- ◆ 業務内容: 証券業(インターネット専業)



※当中間期において、ソニーバンク証券株式会社は連結子会社ですが、ソニー・ライフ・エイゴン・プランニング株式会社は持分法を適用していない非連結子会社です。

ソニー生命がオランダのエイゴン社との合併で行う計画の個人年金保険事業につきましては、今年8月に事業準備会社をエイゴン社との折半出資で設立し、来年度の営業開始を目標に鋭意準備中です。

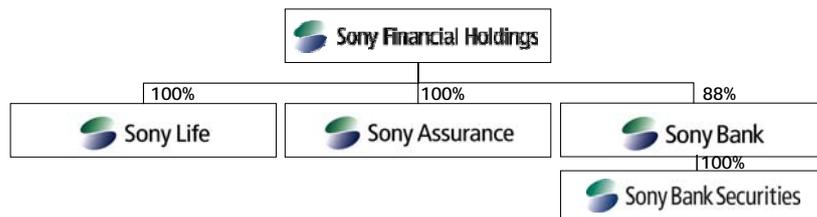
また、今年6月に、ソニー銀行が自らのお客さまに利便性の高い有価証券運用サービスを提供することを目的として設立したソニーバンク証券が、10月より営業を開始しました。

以上

APPENDIX

APPENDIX

ソニーフィナンシャルホールディングスグループ



販売チャネル	<ul style="list-style-type: none"> ■ コンサルティング販売 <ul style="list-style-type: none"> ■ ライフプランナー ■ 代理店 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ダイレクト <ul style="list-style-type: none"> ■ 電話 ■ インターネット 	<ul style="list-style-type: none"> ■ インターネット
主力商品	<ul style="list-style-type: none"> ■ 死亡保障保険 ■ 医療保険 など 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自動車保険(リスク細分型) ■ ガン重点医療保険 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 預金(円、外貨) ■ 住宅ローン ■ 投資信託
ターゲット顧客層	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 安心できる生保ランキング: 1位タイ (2007.6.26 週刊エコノミスト) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事故対応満足度ランキング: 2位 (2007.7.31 J・D・パワー) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Gomezオンラインバンキング総合ランキング3位(2007.7)
規模 ¹	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保有契約件数²: 428万件 ■ 資本金³ : 658億円 ■ 総資産 : 3兆6,071億円 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保有契約件数 : 98万件 ■ 資本金³ : 400億円 ■ 総資産 : 734億円 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 口座数 : 53万口座 ■ 資本金³ : 400億円 ■ 総資産 : 9,661億円

¹ 2007年9月末現在。ソニー銀行の子会社であるソニーバンク証券の数字は含まず。

² 生命の保有契約件数は個人保険および個人年金保険の件数

³ 資本金には、資本剰余金を含む

APPENDIX (1)

主要経営指標(1)

- ▶ 連結経常収益/連結経常利益/連結当期純利益
- ▶ 連結(修正)ROE

<連結(修正)ROEの考え方>

ソニーフィナンシャルホールディングスグループ			
	ソニー生命	ソニー損保	ソニー銀行
分子	年間EV増加額+配当額 (※当期純利益に、危険準備金繰入、既契約将来価値の増減等が加算されています。)	当期純利益 +異常危険準備金繰入額(税後) +価格変動準備金繰入額(税後)	当期純利益
分母	EV(前年度末EV-配当額+今年度末EV)の平均値 (※資本の部に、危険準備金、既契約将来価値等が加算されています。)	純資産の部 +異常危険準備金(税後) +価格変動準備金(税後)の期中平均値	純資産の部の期中平均値

* 配当/税金は考慮のうえ算出することとする。

APPENDIX(2)

主要経営指標(2)

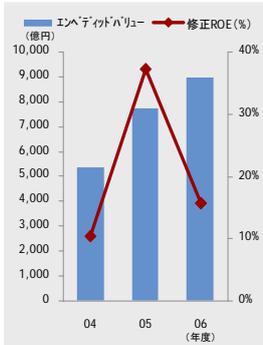


主要経営指標

- 連結経常収益／連結経常利益／連結当期純利益
- 連結(修正)ROE

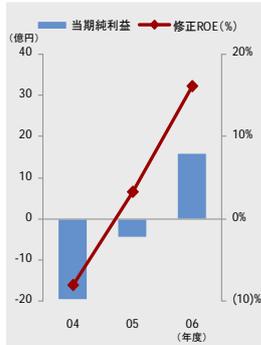
(百万円、%)	2004年度	2005年度	2006年度
連結経常収益	653,259	758,711	759,280
連結経常利益	12,269	25,377	18,354
連結当期純利益	6,375	11,537	10,021
連結(修正)ROE	8.0%	35.1%	15.2%

ソニー生命 エンベディッドバリューと修正ROE



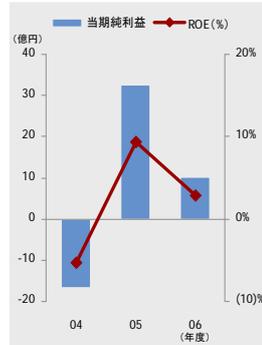
【出所】ソニー生命
注:修正ROE:以下の分子を分母で除した値として算出
分子:年間EV(エンベディッドバリュー)増加額に
配当額を加えた値
分母:(前年度EV+配当額+今年度EV)の期央
平均値

ソニー損保 当期純利益と修正ROE



【出所】ソニー損保
注:修正ROE:以下の分子を分母で除した値として算出
分子:当期純利益+異常危険準備金繰入額(税後)
+価格変動準備金繰入額(税後)
分母:(純資産の部+異常危険準備金(税後)+
価格変動準備金(税後))の期中平均値

ソニー銀行 当期純利益とROE



【出所】ソニー銀行
注:ROE:当期純利益を純資産の部の平均値で除した値

APPENDIX(3)



お問い合わせ先:

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社 広報・IR部
TEL:03-5785-1074

ソニー生命保険株式会社 広報部
TEL:03-3475-8813

ソニー損害保険株式会社 広報部
TEL:03-5744-0330

ソニー銀行株式会社 広報部
TEL:03-6230-5903

※グループ連結の決算・業績などに関するお問合せはソニーフィナンシャルホールディングスへ、一般および報道関係からの方からの
お問合せで、個別各社の事業に関することは各社広報窓口までお願いいたします。

お問い合わせ先